

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

株式会社スニックス

②評価調査者研修修了番号

S2021072
SK2021162
31地福第1948-1号

③施設名等

名称：	駒方寮
施設長氏名：	濱田 光男
定員：	51名(50名)
所在地(都道府県)：	愛知県
所在地(市町村以下)：	名古屋市昭和区花見通二丁目4番地1
T E L：	052-831-5173
U R L：	https://www2.syoutokukai.or.jp/komagataryo/
【施設の概要】	
開設年月日	1936/6/11
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 昭徳会
職員数 常勤職員：	40名
職員数 非常勤職員：	2名
有資格職員の名称(ア)	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	5名
有資格職員の名称(イ)	精神保健福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(ウ)	保育士
上記有資格職員の人数：	14名
有資格職員の名称(エ)	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(オ)	管理栄養士(栄養士)
上記有資格職員の人数：	1名(2名)
有資格職員の名称(カ)	調理師
上記有資格職員の人数：	3名
施設設備の概要(ア)居室数：	25室/259.99㎡
施設設備の概要(イ)設備等：	受水槽 1基
施設設備の概要(ウ)：	観察室 1室
施設設備の概要(エ)：	診察室 1室

④理念・基本方針

<p>【理念】 「幸福(しあわせ)」</p> <p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ひとりひとりに、思いやりの心を持って接します。 2. ひとりひとりを尊重し、その人にあった支援・援助をします。 3. ひとりひとりを大切に、まごころを持って接します。 4. 私たちは、全ての人の幸福を目指し、たゆみなく援助技術の向上に努めます。 5. 私たちは、お互いに助け合い、よりよい生活ができるよう努めます。

⑤施設の特徴的な取組

<p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none">○ユニット単位（中舎制・小規模GC）で生活を行う。○年間を通じスポーツ活動を通じた心身の向上を図る。（ソフトボール・野球・フットサル等）○安定した施設運営や職員の資質向上に着目した委員会・担当を設置。（危機管理・防災・性教育・両立支援・労働安全衛生 / 広報・美化）○自己肯定感を高めるため、「1日1善活動」を実践。（毎月1回報告・掲示）○“暴力”“暴言”に対しては、「絶対にダメ」という姿勢で対応する。○退所後のアフターケアを担当する、“自立支援担当職員”“FSW 2人目”を配置。 <p>【幼児・低学年部：にじ・スマイル】</p> <ul style="list-style-type: none">○小規模グループケア（1ユニット6名以下）の導入○SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）・アソシエーションの定期的な実施○低学年児童に特化した性教育を取り入れる。 <p>【学童部：つばさ・クローバー】</p> <ul style="list-style-type: none">○平日を中心に宿題以外の学習支援（寮で提供するワーク）に加え、ボランティアによる個別の学習指導を行っている。○生活経験を重ねるため、子どもとの食材購入に加え、ユニット調理設備を導入。○心理職が生活ユニットに入りながら子ども達の支援を行うとともに、職員への助言等を行っている。 <p>【地域小規模：ドミトリー・ルピナス】</p> <ul style="list-style-type: none">○家庭的な養育環境での生活○平日を中心に宿題以外の学習支援（寮で提供するワーク）に加え、ボランティアによる個別の学習指導を行っている。
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/4/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2023/9/26
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和元年度（和暦）

⑦総評

<p>【総評】</p> <p>駒方寮は、社会福祉法人昭徳会が運営する児童養護施設である。令和5年4月に2か所目の地域小規模児童養護施設を開設し、新築で養育に対するこだわりを反映させており工夫を凝らした建物となっている。</p> <p>児童の養育・支援にあたっては、法人の基本理念「幸福（しあわせ）」を大切に、すべての子どものしあわせを願い、快適で規律のある日常生活を明るい環境で送ることができるように、関係機関と連携を図りながら職員一丸となって邁進している。</p> <p>さらなる専門性の発揮、多機能化、地域貢献に向けての活動が期待される児童養護施設である。</p> <p>【特に評価の高い点】</p> <ul style="list-style-type: none">◆快適な生活空間 本体施設、地域小規模児童養護施設とも安全が確保され、室内は明るく温かみのある環境となっている。職員が率先して美化に努めており、リビングなど共有スペースは常に清潔で整理整頓され、子ども自身が職員から大切にされていると実感できる生活環境が整えられている。◆子どもが意見や苦情を述べやすい環境づくり 職員が子どもたちの言葉に耳を傾けて日々向き合っているが、さらに、子どもが意見や苦情を述べやすい環境づくりに努められている。意見箱については、不満・不服の表出に過ぎない意見についてもきちんと記録を残し、必要に応じて改善に反映させるなど丁寧な対応を心掛けている。また、権利擁護委員と子どもとの面談の実施、児相職員が定期的にグループワークを行う取り組みなどを通して、子どもの意見表明の場が数多く保障されている。◆最善の利益にかなった学習・進学等の支援 基礎学力の向上を重要な養育・支援のポイントの一つと捉え、日常的には宿題以外の学習支援にも力を注ぎ、必要に応じてボランティアによる個別支援を行っている。進路選択にあたっては、自己決定ができるよう必要な資料を用意し、子どもと十分に話し合われている。また、事情により高校中退した場合でも、高卒資格取得を諦めるのではなく、無理なく高卒資格を取り将来の選択肢を広げるため、通信制高校転入・編入を活用している。 <p>【検討・改善が望まれる点】</p> <ul style="list-style-type: none">◆標準的な支援方法の確立 現在、養育・支援の標準的な実施方法について不十分なところや口頭のみで伝えられていたところを文書化して整理する取り組みを始められている。今後は、基本的な支援技術、子どもの権利擁護、成長発達のために必要なポイントなどについて、施設が大切にしたいポイントを職員間での十分な話し合いを経て確認したうえで、標準的な支援方法の確立を期待したい。◆業務改善の取り組み さまざまな課題の改善に向けた取り組みは、検討する仕組みはみられるものの十分機能しているとは言い難い現状である。実効性の高い業務改善活動を行うためには、職員の意見集約、課題の文書化による共有、改善に向けたスケジュール設定、進捗状況の確認などに留意された取り組みが求められる。PDCAサイクルの組織への浸透に期待したい。
--

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

<p>前回と比較し、子どもたちへの支援として駒方寮が大切にして取り組んできたことを評価いただけたことには感謝し、併せて、従来からの課題（文書化やPDCAサイクル）は私たちが向かうべき支援の方向性として受け止め、子どもたちの安心・安全な生活を目指し、引き続き改善に努めたいと感じました。</p>
--

⑨第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	a ○ ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 基本理念「幸福（しあわせ）」にもとづいた基本方針・職員行動指針については、名刺サイズのカードを職員が携行しいつでも確認できるようにし、朝の会や職員会議等で読み上げている。さらに行動指針については、毎月法人として強化項目を掲げ、その内容を文書にて各施設に配付することにより浸透を図られている。また、パンフレット・機関誌「こまがたより」・ホームページへの掲載、施設内に掲示することにより、保護者や地域等への周知を図っている。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】 法人施設長会、全国児童養護施設協議会、区の社会福祉活動計画の策定会議等を通して把握した社会福祉の情報は、職員会議・運営会議等の会議時に資料を配布して説明することにより職員と情報共有を図っている。把握した動向や養育・支援のニーズなどの外部環境について分析した結果は、中期経営計画に反映されている。予算・補正予算等の作成時にはワークシートを用いて分析を行ったうえで作成している。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】 管理者層によるSWOT分析によりサービスの内容・品質、コミュニケーションの質の向上などの経営課題については明確にされている。業務改善や働き方の見直しなどを協議する場として両立支援委員会の設置や社会貢献活動に関する領域で改善に向けた取り組みが進められ、成果がみられているところも見受けられる。今後は、施設としても重要課題と認識されているタイムマネジメントをはじめとする働き方改革や職員間のコミュニケーションの向上、養育・支援の質の向上に向けて具体的な取り組みが進められていくことを期待したい。	

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設として3年間の中期経営計画が策定され、理念や基本方針の実現に向けての課題・アクションプラン・到達点等が明記されている。到達点については、どのような状態まで持っていくかという観点から評価を行える内容となっている。令和5年度は中間期にあたり、リーダー等から意見集約をして見直しを行う予定である。今後は、より実効性の高い計画とするためには財務面の裏付けが不可欠であり、収支計画を伴った中期経営計画の策定が望まれる。</p>	
<p>② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>事業計画書には4項目の事業目標を掲げ、それぞれの具体的な計画を設定している。その内容は、中期経営計画の内容が反映され、課題解決のための取り組みの内容、実施部署が記載され、実行可能で具体的な内容となっている。また、事業計画の内容をふまえて、グループ目標及び個人目標を設定していくことで、実施状況の評価を行える仕組みもみられる。今後は、事業計画書及び事業概要の内容は、数値化されたり到達水準が具体的に示されているところもあるが、グループ目標などで抽象的な表現のところもあり、記載方法のさらなる工夫を期待したい。</p>	
(2) 事業計画が適切に策定されている。	
<p>① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/>評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>事業計画の策定にあたっては、秋頃から年末にかけて施設長及びリーダー職員による運営会議で進捗状況・現状を把握したうえで検討・作成して法人本部へ提出し、職員会議で周知を図っている。計画策定にあたっては、一般職員や子どもの意見が十分に反映されているとは言えないところがあると認識されており、より多くの職員が参画できるようにするため、アンケートを実施するなど多様な取り組みを期待したい。</p>	

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画や事業概要についてはホームページ・広報誌に掲載することにより、保護者や関係者等に周知を図っている。子どもに対しては行事や生活に大きく関わる部分については、掲示をしたり子ども集会等にて適宜説明をしている。今後は、子どもに対して年度方針や目標等主な内容を簡潔にまとめたわかりやすい文書を作成し、周知する取り組みを期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

グループ会議では毎月、自分の支援や行動を振り返る場を設け、必要に応じて上席者がアドバイスをしている。第三者評価・自己評価、人権チェックリストや各種アンケート等の結果については集計し、職員間で共有を図っている。評価・アンケート等の結果については集計されているものの、課題の共有までとどまっているケースが多く、今後は、優先的に解決を図るべき課題を明確にして、組織的にPDCAサイクルを意識した実効性のある取り組みを期待したい。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

第三者評価の結果については、報告会を開催して職員全体で共有を図っている。経営面に関する課題については「中期経営計画」に盛り込み、その内容を会議等で共有を図り、課題解決に向けては、仕事と休みのバランスをとれるように両立支援委員会の発足等の体制づくりに取り組まれている。今後は、評価結果を受けて改善に向けて計画的に進められている状況とまでは評価することができず、自己評価や第三者評価等の仕組みを活用しながら施設の提供する養育・支援の質の向上に向けた体制のさらなる整備や実践を期待したい。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設長は職員会議等にて施設が目指している基本方針等を説明し、職務分掌等において施設長の役割が明記され、実践場面においてもそれに即した業務を遂行している。広報誌の巻頭においても毎号コメントを掲載し、養育・支援等に関する方針等を表明している。有事における役割と責任や不在時の権限委任等については、組織体制図やBCPIにて明示されている。</p>	
<p>② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設長は遵守すべき法令や制度等について研修会や会議に参加して積極的に情報収集、研鑽に努めている。知りえた情報は資料を配付して周知を図っている。また、法令遵守規程を毎年4月に配付し基本姿勢などの周知を図り、法人の各種規程は共有フォルダーに入れて、職員がいつでも確認できるようにしている。今後は、資料等の閲覧を口頭で促しているときもあり、どの程度職員で共通認識として持たれているかなどの検証を行っていく取り組みを期待したい。</p>	
<p>(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。</p>	
<p>① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p> <p>(社会的養護共通)</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>リーダー会議等の参加を通して、養育・支援の質の現状の把握に努めている、養育・支援の質の向上にあたっては、職員の主体性を大切にするため、職員の話し合いの結果を尊重している。課題を抱えている子どもや進路選択時等には子どもと面談をする機会を設けている。施設長は自己研鑽に努め、職員に対しても職員の専門性向上は必須課題ととらえ、施設外の研修等に積極的に参加を奨励し、園内研修にも力を注いでいる。今後は、さらなるリーダーシップの発揮を期待する職員の声もあり、その理由を検証されさらなる取り組みを期待したい。</p>	

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【コメント】

働きやすい職場環境の整備については、事業計画にも目標等を掲げ、両立支援委員会等の活用を通して具体的に改善活動に取り組まれている。勤怠システムの導入を通して退勤に対する意識化を図っているが、記録等の書類作成を勤務時間内に確保することや労働時間の把握等に関しては、抜本的な改善には至っていないと見受けられる。また、人員配置についても職員間で認識の相違がみられる。今後は、より職員が働きやすく魅力ある職場づくりを目指すために、職員の意見・意向を把握したうえで解決すべき課題に対して実効性のある改善活動を期待したい。

2 福祉人材の確保・育成

(1)	福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	

【コメント】

法人として人材育成を最重要の経営課題として、キャリアに応じた育成、専門性及び人間力の向上、自己啓発の支援等の取り組みを充実させている。職員の採用及び確保は法人本部の主導で行われており、対面・オンラインの就職説明会を各々複数回実施し、配置希望先の業務体験を実施し、一次試験選考は施設長が行っている。また、児童福祉の見識の高い人材をスーパーバイザーとして位置付け、事例検討を行っている。加算職員の配置に積極的に取り組まれているが兼務のケースもあり、今後の課題と認識されている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

法人で人材育成を目的とした評価制度を導入している。職員一人ひとりが目標設定し、仕事の達成度や仕事の質など10数項目の能力を上司が総合的に判断する。評価にあたっては、職員の業務遂行表を用いて正当な評価になるような仕組みがみられる。「キャリアパス概要図」により、各等級の到達レベル、昇格試験受験資格の基準・免許及び資格要件の明記、役職者と高度専門員と区分化もされ、キャリアパスが明確化されている。また、法人が異動希望や特技、キャリアアップ等についてのアンケートを実施して人事管理に活用されている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は、職員の就業状況を把握し、個人面談等を通して意向の確認をしている。働きやすい職場環境づくりに向けは職員アンケートをもとに休憩室を利用しやすくし、法人としては年間休日126日、福利厚生制度を充実させている。メンタル面への配慮については、努力義務であるストレスチェックの実施や療養休暇を取得できるなどの対策を実施している。今後は、職員の意見・要望について分析する機会を設け、具体的な計画に反映させて、職員のモチベーションが向上しさらに働きやすい職場環境の整備を期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

法人で目標管理制度に取り組み、年に3回(目標設定・中間面接・達成度評価)上司による個人面接を行っている。施設(グループ)目標を達成するための自らの個人目標と具体的な取り組み、自己啓発の目標を設定している。個人面接は直接の上司が行うが、施設長もその内容を確認している。人事考課については、階層ごとに具体的な作業基準表(遂行レベル)が設けられており、階層ごとの到達点が明らかにされている。今後は、面接時間が確保されない時もあるとの声もあり、職員育成のため十分な面接時間の確保が望まれる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

法人として人材育成を最重要の経営課題として、「キャリアに応じた育成」など4つの柱を軸とした研修体系を実施し、求められる人材・役割も明確にされている。研修への参加はリーダー会議にて組織のニーズ等を勘案して参加職員を検討している。施設内研修の内容・実施については、リーダー会議にて協議している。今後は、研修報告書の活用による研修内容の共有や、研修内容の評価及び見直しの取り組みを期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

施設長が届出の提出等を通して、職員の専門資格の把握をしている。OJTについては、役職者（グループリーダー）が新任職員をはじめグループ職員のOJTの役割を担っている。内部研修においては、外部講師を招いて役職者を対象にコーチング研修、外部のスーパーバイザーにより支援方法の助言を受ける事例検討会等を実施している。自己啓発に関しては、社会福祉士等について資格取得セミナーを実施している。今後は、OJT指導担当職員間でOJTの内容に差異を生じないようにする取り組みを期待したい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生受入れ・実習生指導マニュアルが整備され、受け入れの意義・目的、実習内容・プログラムなどについて明記されている。事前訪問時には児童指導方針や対応方法などを記載した資料に基づき説明し、説明内容に差異が生じないようにしている。日々の振り返りは担当職員が行い、実習指導者も保育実習については実習期間中に2回行っている。保育実習生は、実習最終日に幼児部にて責任実習に取り組むようにプログラムが策定されている。

3 運営の透明性の確保

(1)	運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

施設のホームページをリニューアルし、理念や基本方針などがわかりやく公開されている。第三者評価の受審結果及び自己評価の結果、決算関係、事業計画・事業報告等については施設及び法人のホームページにて公開されている。苦情の内容と対応についても法人のホームページに公開される仕組みがみられる。今後は、情報発信を充実させていこうとする意向はみられるものの、「苦情の対応」などについての更新は定期的とはいえずタイムリーな更新を期待したい。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

経理や契約事務等の業務は、職務分掌による権限に基づく職員が経理規程を遵守して執行されている。会計士が伝票等の確認をして、指摘・アドバイスを受けることができる体制にあり、会計監査人も設置され3年に1回監査を受けている。また、法人監査室による内部監査が年1回実施され、関係法令等に基づく運営がなされているかチェックを受ける体制にある。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

地域との関わり方については、事業計画書に「地域との共生に向けた連携強化と地域貢献の推進」という項目を設け、計画内容が記載されている。町内会や子ども会への職員派遣や地域行事への参加、登校時の付き添いや地域のパトロールを通して、地域の子どもの見守りを推進するとともに地域の方とコミュニケーションを深める機会ともなっている。地域交流行事は新型コロナの影響で、計画的な取り組みができていないものの、広報誌で地域交流室などの利用について呼びかけたりするなど、施設として積極的に地域との交流を広げる取り組みを行っている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ボランティアマニュアルが策定され、受入れの意義・目的、受入れの流れや留意点等が明記されている。子どもと直接関わるボランティアには、子どもとの関わり方や個々の子どもについて配慮すべき点について口頭で説明されている。理髪や学習ボランティア等長く続けられているボランティアの方も多い。今後は、体験活動などの学校教育への協力については、要望があれば受け入れる意向はあるものの、受け入れ時の対応等については明文化までには至っておらず、スムーズに受け入れをすることができるような体制づくりを期待したい。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所や学校等の関係機関とは定期的に会議を行い情報共有をし、さらに児童相談所とは月1回の子どものグループワークを通して連携を図っている。会議等の内容等については、会議録や報告書として児童管理ソフトで作成され、全職員がパソコンで確認できるようになっている。自立支援担当職員はアフターケアを担当するだけでなく在園中に自立に向けて必要な取組みを行い、職業体験などを実施する場合にも関係機関と協働して計画をする仕組みが確立されている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="radio"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

子ども会や町内会への参加を通して地域の福祉ニーズを把握する機会としている。また、施設内の地域貢献活動担当職員が、学区の社会福祉協議会に出向いて情報収集をする等、地域ニーズを積極的に把握していこうとする姿勢がみられる。感謝祭等の施設行事でのアンケート実施も予定されており、今後の取組みを期待したい。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

法人には社会貢献事業推進委員会が設置され、法人職員が地域清掃等のボランティア活動に取り組むよう呼びかけている。地域貢献の推進等については、施設の事業計画に具体的に記載されており、男性職員が地域の消防団に登録していることも地域ニーズへの対応の一つといえる。また、避難所としての役割を担うことができるよう、緊急時における非常食を用意している。現在は様々なニーズを把握することに力を入れている段階のため、今後、施設の専門性を地域へ還元することなどを通して、ニーズに基づいた事業や活動へとつなげていくことに期待したい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果																		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="459 315 485 338">①</td> <td data-bbox="544 315 1345 371">28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。</td> <td data-bbox="1393 315 1418 338">b</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 378 1345 434">□理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</td> <td data-bbox="1393 378 1418 400">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 441 1345 497">□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</td> <td data-bbox="1393 441 1418 463">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 504 1345 560">□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。</td> <td data-bbox="1393 504 1418 526"></td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 566 1345 622">□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</td> <td data-bbox="1393 566 1418 589">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 629 1345 685">□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</td> <td data-bbox="1393 629 1418 651">○</td> </tr> </table>	①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b		□理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○		□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○		□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。			□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○		□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○	
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b																	
	□理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○																	
	□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○																	
	□子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。																		
	□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○																	
	□子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○																	
【コメント】																			
<p>基本理念や職員の行動指針だけでなく、職員の職務、養護や自立に向けた支援の基本原則が法人の法令順守マニュアルや施設の運営規程に記載されている。それらの内容は、年度初めの職員会議等を通して職員へ説明され、定期的に職員が実施する人権擁護のためのチェックリストにより、子どもの尊重や権利擁護について振り返る機会がある。一方で、マニュアルや手順書等への記載がなく、取り組みとしては十分とは言い難い点もある。今後は、職員が共通理解を持って養育・支援を実施するためにも、マニュアル等の作成が望まれる。</p>																			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="459 927 485 949">②</td> <td data-bbox="544 927 1345 983">29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。</td> <td data-bbox="1393 927 1418 949">b</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 990 1345 1068">□子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。</td> <td data-bbox="1393 990 1418 1012">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 1075 1345 1131">□規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。</td> <td data-bbox="1393 1075 1418 1097">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 1137 1345 1193">□一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。</td> <td data-bbox="1393 1137 1418 1160">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 1200 1345 1256">□子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。</td> <td data-bbox="1393 1200 1418 1223"></td> </tr> </table>	②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b		□子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○		□規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○		□一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○		□子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。					
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b																	
	□子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○																	
	□規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○																	
	□一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○																	
	□子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。																		
【コメント】																			
<p>職員に対しては、プライバシー保護に配慮して子どもと適切に関わることができるよう、施設で作成した虐待防止ガイドラインや人権擁護チェックリストなどを活用し周知を図っている。施設内は男女別にスペースが分かれており、各ユニットでもプライバシーを守るために他児童の居室には入らない・自室には他児童を入れないことを共通ルールとして子どもに説明されており、その内容を記載したものを掲示しているが、子どもへのわかりやすい説明が課題と認識されている。今後は、子どもへの周知方法のさらなる工夫を期待したい。</p>																			
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。																			
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="459 1543 485 1565">①</td> <td data-bbox="544 1543 1345 1599">30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。</td> <td data-bbox="1393 1543 1418 1565">a</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 1606 1345 1662">□理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。</td> <td data-bbox="1393 1606 1418 1628">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 1668 1345 1724">□施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</td> <td data-bbox="1393 1668 1418 1691">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 1731 1345 1787">□施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。</td> <td data-bbox="1393 1731 1418 1753">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 1794 1345 1850">□見学等の希望に対応している。</td> <td data-bbox="1393 1794 1418 1816">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="544 1856 1345 1912">□子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。</td> <td data-bbox="1393 1856 1418 1879">○</td> </tr> </table>	①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a		□理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○		□施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○		□施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○		□見学等の希望に対応している。	○		□子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○	
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a																	
	□理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○																	
	□施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○																	
	□施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○																	
	□見学等の希望に対応している。	○																	
	□子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○																	
【コメント】																			
<p>施設に入所する際の子どもや保護者への説明は、施設で作成された「生活のしおり」を用いて説明されている。「生活のしおり」はイラストを活用し、文章はわかりやすい言葉で漢字にはルビを入れて記載されており、毎年見直し、加筆修正している。また、入所前の見学も受け入れており、わかりやすい説明に心がけ、施設のパンフレットや「生活のしおり」の内容がより具体的にイメージできる機会となっている。</p>																			

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

日々の生活の留意点は生活のしおりにて説明され、各ユニットには生活のルールがわかりやすく掲示されている。養育・支援の開始時等には、子どもの年齢や理解度に合わせて口頭等で説明がなされ、子どもや保護者から同意を得たことについては、児童管理ソフトに記録している。ただ、施設として職員が説明する際の手順や留意点が明示されていない。今後は、説明内容に差異が生じないように手順書の作成や、意思決定が困難な子どもや保護者が理解を深めることができるような工夫等を期待したい。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

子どもの措置変更の場合は、養育・支援が継続されるよう引き継ぎ書を作成している。卒園等自立する子どもにはアフターケアで行ってほしいことを聞き取り、記録に残すとともに退所後の担当職員を記入した書面を渡している。ただ、家庭復帰する子どもや保護者には口頭での説明に留まっている。今後は、養育・支援の継続性を確保するために、退所後の相談方法や担当職員を記載した文書を渡す取り組みを期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

子ども集会や心理士によるヒアリング等を通して定期的に子どもの意見を聴取する機会があり、職員間でその内容の共有を図っている。内容は生活上のルールや困りごとの相談が主で、個別もしくは各ユニットで協議し対応している。食事に関する嗜好調査は実施され、行事に関しても必要に応じてアンケートを実施しているが、生活全般に関する満足度を把握するための取り組みとしては十分とは言えない。今後は、子どもの満足を把握するという観点から、子どもへのアンケートやヒアリングの内容の検討を進められたい。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決の体制が整備され、苦情解決の窓口や担当者、権利擁護委員・第三者委員は玄関のわかりやすい場所に掲示されている。意見箱は玄関と各ユニットに設置され、子どもが気軽に投函できるように配慮されている。意見箱は定期的に特定の職員が開封し、個別もしくはユニット会議等にて対応を協議し、意見箱に投函された意見はまとめられ書面に残すことにより全職員が確認できるようにしている。また、その内容は権利擁護委員にも報告されている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

日頃から職員が子どもの声に耳を傾けるように心がけている様子が伺え、また意見箱の設置、心理士や権利擁護委員による個別のヒアリングが定期的に行われている。子どもの希望に応じて、話をする時間や場所を選択できるように配慮されていることや、生活のしおりに困ったことや言いたいことがあった時にはどうすれば良いかがわかりやすく記載されている。また、児相職員とのグループワークが定期的に行われていることもあり、子どもが児相職員を身近な存在として認識している様子も伺えた。今後は、発達段階や能力によって十分に意思表示が難しい子どもへの対応についても検討されたい。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

子どもからの相談や意見は、解決・改善に向けて個別もしくはユニット会議、子ども集会で議題にあげられている。意見箱も含め、子どもから活発に相談・意見等が出てくることから、子どもにとって相談しやすい環境であるといえる。その一方で、子どもからの相談への対応等を定めたマニュアルが未整備のため、組織的に取り組んでいるとはいえない。子どもからの意見や要望に更に適切・迅速な対応をしていくためにも、相談等の受入れから報告、対応策の検討等についての流れがわかるマニュアル等の作成を期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	
【コメント】 リスクマネジメントについては、担当部署として危機管理委員会が設置されている。施設内の危険個所のチェックは行われ、ヒヤリハットやアクシデントレポート等は丁寧に作成され、ファイリングされている。レポートの内容は、職員会議で報告され、パソコンでも確認できるようにしているが、各レポートのまとめ・分析・再発防止の検討については不十分なところがみられる。今後は、レポートをPDCAサイクルを意識し活用して改善策や再発防止策の検討、また事故発生時の手順等を明確にすることで、リスクマネジメントの体制強化につなげられたい。		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
【コメント】 感染症マニュアルには、様々な感染症の症状や対応策が具体的に記載されている。新型コロナウイルス感染拡大時には、名古屋市から派遣された看護師のアドバイスや手洗い消毒等の講習を受け、適切な対応をすることができた。感染症の発生が疑われた際、上席者に報告・指示を仰ぐようにしているが、マニュアルには明記されていない。今後は、マニュアルに管理体制を明記するとともに、感染症の流行時期には、マニュアルを用いて注意喚起の機会を設けるなどの取り組みを期待したい。		
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
【コメント】 施設内は家具の固定など耐震や防火対策がとられ、災害時用に7日分の食料や様々な備蓄品が用意されている。避難訓練や法人の総合防災訓練は定期的の実施され、また施設で作成された地震への心得を職員に配付して適切に行動できるように周知されている。昨年、法人全体の「事業継続計画」(BCP)が作成され、現在施設としてのBCPを作成中である。今後は、施設の実状に即したBCPの作成後に、BCPの内容を盛り込んだ訓練を取り入れられることを期待したい。		

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	<p>40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法が適切に文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</p>	c
<p>【コメント】</p> <p>職員は各ユニットで作成された日課表に沿って日々の養育・支援を行っており、日課表には業務内容とその留意点が記載されている。携帯電話の所持やアルバイトなどについては業務マニュアルが作成されている。ただし、養育・支援の全般について標準的な実施方法を示しているとは言い難く、職員からは判断に迷う場面があるという声も聞かれる。現在、養育・支援について口頭で伝えられていたものを標準的な実施方法として文書化して整理する取り組みを始めており、今後の取り組みを期待したい。</p>		
②	<p>41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/>検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。</p>	c
<p>【コメント】</p> <p>日々の支援に活用しているユニットの日課表は毎年見直しがなされている。現在、養育・支援の標準的な実施方法については整理作成中であるため、完成した際には定期的な検証と見直しをする仕組みづくりを確立されたい。</p>		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	<p>42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画策定の責任者を設置している。</p> <p><input type="checkbox"/>アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>アセスメントシートには、子どもの様子や本人の意向、長所や強みだけでなく、担当以外の職員の意見や児童相談所との協議事項等が記載され、現状の把握と課題の抽出を行っている。年度初めに作成されたアセスメントシートは自立支援計画に反映されており、担当職員だけでなく心理士や家庭支援専門相談員といった多職種が関わることで、子どものニーズに沿った自立支援計画が適切に作成されている。</p>		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画は年に2回、評価と見直しを行っている。計画についての会議にはアセスメント同様、多職種の職員が参加し、その会議録は全職員がパソコンで確認できるようになっている。子どもには、長期目標や支援内容に対する要望や意向を口頭で聞き取り、支援ニーズと勘案しながら計画に反映するようにしている。また、年度途中で計画の変更を要する場合は、緊急でも評価と見直し、会議を行ったうえで計画の変更を適切に行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもに関する養育・支援の実施状況は児童管理ソフトに記録されている。記録はパソコンのネットワークシステムにより、他のユニットや小規模児童養護施設でも確認できるようになっている。また、児童管理ソフトの記録で引継ぎを行い、面会日時や投薬内容の変化等についても共有を図っている。記録の入力についての留意点や手順については、口頭で職員に説明がされ、適宜リーダー等が個別指導している。今後は、職員による記録の差異が生じないように、記録記入についての手引き等の作成が望まれる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

子どもに関する記録は、施設のできる事務所で保管されている。法人の就業規程には個人情報保護について遵守すべき点が明示されており、職員研修でもテーマとして取り上げられている。職員一人ひとりにパソコンを貸与し、セキュリティシステムが整備され施設外に持ち出さないよう徹底しているが、紙ベースの資料等の取り扱いや破棄の徹底については遵守できているか曖昧な部分があるため、取り扱い方の統一と職員への周知徹底が望まれる。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

施設独自に「虐待防止ガイドライン」を作成し、全国社会福祉協議会の「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」を年2回実施している。また、外部招聘による権利擁護委員を配置し、年3回子どもへのヒアリングを行っている。特に自分から声のあげられない子どもへの取り組みとして、年少児については幼児部会で現状や課題等を検討している。今後は、チェックリストの結果の活用や振り返りを定期的に行うことで、施設全体で子どもとの適切な関わりへの支援の改善につなげることができるよう取り組みを期待したい。

(2) 権利について理解を促す取組		
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	

【コメント】

権利についての理解を深めるために年齢別の部会において検討する場を設け、権利ノートに添付されているハガキの使用法について子どもにわかりやすく説明している。また、毎月の職員会議において必ず権利擁護についての議題を挙げ、職員全体で検討する機会を設けている。施設独自の取り組みとして「一日一善箱」が設置されており、他者の良い点を認め合う取り組みを行っている。今後は、それらの取り組みの中で、弱い立場にある子どもに対して思いやりの心が育まれるよう支援の充実を図りたい。

(3) 生き立ちを振り返る取組		
①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

生き立ちを知らせる場合には、子どもの個々の状況に応じて最大限の配慮を行っている。また、事実を知らせるタイミングを大切にするとともに、子ども自身が「なぜ知りたいと思ったか」という点も大切にすることを心がけている。さらに、児童相談所との連携による月1回のグループワークを通じて、子どもの変容等に対しフォローできるように協力体制を整えている。ただ、高齢児になると整理されたアルバム等を自ら破棄するケースも見受けられることから、今後は、成長の記録を保証するとともに破棄にいたる子どもの心情によりそう支援にも期待したい。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自身が訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

職員の不適切なかかわりがあった場合には、法人の就業規程において厳正に処分を行う仕組みが整っている。職員に対しては、チェックリストの活用や職員行動指針の提示、時事ニュースの周知等の取り組みをしている。子どもについてはヒアリングの機会の充実以外にも、意見箱が各所に設置され毎月のように子どもたちからのさまざまな意見を汲み取っている。今後は、定期的な検討課題の振り返りと日々のチェック体制の強化、虐待が疑われる事案が生じた際の対応方法を確立されたい。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	

【コメント】

子どもの入所の際には、「生活のしおり」を使用して絵やルビのふられた文章でわかりやすく説明している。また、それまでの生活とのつながりを重視し、温かく迎え入れることができるように努めている。比較的入所期間が長い児童が多いなか、本体施設から地域小規模児童養護施設への移行の際にも、児童の関係性や個々の状況を検討し、子どもが継続して安定した生活が送れるよう配慮している。退所後の支援については児童相談所が主体になることが多く、退所後も関係の継続に努め施設としての支援の充実を図られたい。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

退所後の子どもの相談窓口として自立支援担当職員が当たっているが、職員の交代等が度々みられるため経験の長い職員がカバーしている。特に高齢児では高校中退ケースを作らず、全日制から通信制に切り替えながら、子どもが在園中にさまざまな生活の課題に気づき、対応する力を養える支援に努めている。また、社会的養護の就労支援を行う民間団体と連携を図っている。施設の歴史の長さから多くの卒園児を抱えているが、卒園児が集う機会を設定した直後にコロナ禍になったため、今後の実施や機会の充実に期待したい。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの気持ちに寄りそう支援を心がけており、子どもたちは施設内で「自分は大切にされている」という感覚をもてていると表現している。また、外部スーパーバイザーである児童心理司や臨床心理士による愛着に関する内部研修を充実させている。今後は、職員との関係性を含め、日々の関わり方を子どもがどのように感じているかなど、アンケート等を実施して子どもの状況を把握し、子どもの思いや個々の課題に対応できるような取り組みを期待したい。</p>	
<p>② A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子ども一人ひとりの基本的欲求の充足のため担当制をとり、子どもの思いを受け止めるよう支援に努めている。各ユニットでの職員の裁量権があり、個々の状況に柔軟に対応できる体制になっている。標準的な支援方法のあり方については職員も模索している状況があり、各ユニットでの柔軟な対応が差異と捉えられているケースもある。今後は、職員と子どもが個別に触れ合う時間を十分確保できるように体制整備を図られたい。</p>	
<p>③ A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>職員と子どもと一緒にユニット内を清掃する習慣があり、整理整頓された快適な生活環境となっている。子どもがやらなくてはいけないこと、当然できることについては子ども自身が行えるよう見守り、できない時に相談できるような支援に努めている。子どもが困っているときには、時間をかけて寄り添い待つ姿勢に心掛けている。また、一日一善活動の取り組みが子どもの自己肯定感を高めたり、子ども同士で認めあうことができる機会となっている。今後は、個々の支援の方向性が統一されたものになるように、検討を重ねられることに期待したい。</p>	

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

3歳未満児などの施設内保育については年間・月間の保育プログラムがある。施設内には図書室も設けられ多様なジャンルの書籍が備えられている。ゲーム機等の所有については、自分の小遣いで購入するという施設のルールがあり、アルバイトしている高校生以外ほとんど所有していない。ゲーム機に限らず地域で暮らす子どもという視点からニーズを把握し、施設としての対応を検討・整理されたい。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

調理知識や技術の習得のために、ユニット内での調理を定期的実施し、子どもの生活の至近で一連の調理が展開される機会を設けている。また、洗濯や入浴を通して清潔さの重要性を伝え、子どもが健康を自己管理できるように支援している。高校生には携帯電話を持つ前に、自立支援担当職員がSNS講習会及び使用説明会を開催している。今後は、子ども集会を定期的実施するなどして、決まりや約束事が十分に話し合われるような体制づくりに努められたい。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

各ユニットにはアイランド型キッチンが整備され、調理家電も充実しており冷めたものを温めなおし、冷たいものを冷蔵することにより、適温で提供されている。嗜好調査結果や子どもたちのリクエストは、献立に反映されている。調理員が定期的にユニット内で調理を行うとともに、職員も朝食づくりを行っている。また、週1回は手作りによるおやつを提供し、調理に関心が持てるように努めている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

衣類については一括購入ではなく、個々の年齢・ニーズ等に応じて職員と一緒に購入に出向いたり、子どもが地域の店舗で自分自身で選択しており、自分の好みに応じた衣服を購入できるようにしている。卒業式などの私服のように日常とは異なる場面に応じた服装についても伝えられている。また、洗濯、アイロンがけなどを子どもの近くで行うとともに、子ども自身が洗濯機内の汚れや、洗濯物の仕上がりに着目できる視点を持てるよう、きめこまやかな支援がなされている。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

安全箇所点検を定期的実施し、子どもにとって安全な環境の整備に努めている。また、職員と子どもと一緒に清掃する習慣が根付いており、年2回の大掃除を実施するなど、共有スペースは常にきれいに保たれている。個室が提供されない低年齢児にも、自分の持ち物をきちんと保管できる個々のスペースを確保している。また、破損があった場合には放置せず直ちに修繕がなされている様子が伺え、広い施設内でありながら普段使用しない物品等が溜めて置かれている状況もほとんど見受けられない。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

嘱託医と連携して子ども一人ひとりの健康状態を把握し、インフルエンザ等の予防接種を実施することにより、疾病の予防や対応に努めている。コロナ禍にあっても、随所に設置されている子どもの身長に対応した洗面所の利用や、施設内の個室を有効に利用することで感染の拡大防止を図っている。医師の指示のもと服薬は職員が管理し、記録に残し対応している。今後はさらに、職員が医療や健康に関して学ぶ機会を充実させることを期待したい。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

性教育委員会が中心となり、未就学児・中学生に対してプライベートゾーンや他者との接し方についてなどテーマに添って、また児童相談所と連携して男子ユニット内で性について学習する機会を設けている。職員については外部産婦人科医による学習会を実施している。今後は、小学生や女子ユニット内での学習の機会を設け、施設全体で子どもが他者の性を尊重し年齢相応の健全なつき合いができるような支援の充実を図られたい。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの在籍期間が比較的に長いこと、施設での日々の生活が継続して安定しており行動上の問題の軽減の一助となっている。児童相談所との連携は密で、組織的にも児童相談所職員がアドバイザーとして配置されており、行動上の問題のあるケースに対して個々の職員が抱え込まず、集団として検討されるよう努めている。今後は、施設として取り組む支援のあり方を全体で検討し共有することにより、対応する職員の不安軽減をさらに図ることができるような取り組みを期待したい。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

地域小規模施設では男女が一緒に住むことを想定し、2階寝室を男女別に分けるために階段を2か所設けるなど、施設のビジョン実現のため必要な措置を講じている。また、施設内での差別が生まれないように子どもの家庭環境を把握し、持ち込みの差異が生じる恐れがある際にはルールの見直しなど柔軟に対応している。さらに、性教育のプログラムに添って、施設内の性的課題にも対応し、子どもに対して具体的に不適切な他者との接し方を資料を使ってわかりやすく示している。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

心理ケアに対応する職員を複数配置し、一人はユニット内での生活場面に即して支援することで、職員や保護者への助言・援助につながっている。もう一人はセラピー専任であり、そのスペースも確保され、待合スペースにソファが用意されているなどセラピーにむかう子どもへの配慮がみられる。また、児童相談所の心理士からスーパービジョンが受けられる体制や、心理ケアを担当する職員が知りえた情報を元に、施設全体で子どもの課題について検討する体制も整えられている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

子ども一人ひとりに学習机が提供されて個別のスペースが用意されており、本人の希望があればリビングでの学習もできるように配慮されている。中学生の塾などへの対応については、本人の希望に応じて学校への課題等の提出状況や学習意欲を元に判断し、地域の塾に個別に通う機会を保障している。また、学習ボランティアに協力を仰ぎ基礎学力の向上を図るとともに、土曜日の午後でも勉強すると話をする小学生もいて、学習習慣が身につくことができるような支援を実践している。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

進路について自己決定できるように進路選択に必要な情報を子どもに提供している。特に、高校生には全日制に合格してもその後の状況が続かなくなった場合には通信制につなげ、途中で退学するケースをなくし、就労支援も合わせて卒業後にむけて子どもが課題を整理し、対応する力を養えるよう支援している。大学への進学も希望に添って支援しており、中学生が希望する高校を、高校生が大学進学や将来の職業設定を自然に語れるよう支援に努めている。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

高校生には学業の安定を図りながら、卒業後の生活を見据えアルバイト等を奨励している。アルバイト収入等については入金される通帳を職員が管理し、携帯電話代などの日々の必要経費及び将来にむけての蓄え方などを子どもと一緒に考え、支援している。また、自立援助ホームが運営する社会的養護の就労支援事業所と連携し職場実習をすすめる、民間団体が名古屋市と共同して実施している自立援助セミナーへの参加も促している。今後は、個々の子どもの状況に対応した実習先の開拓、協力事業主との連携を図る取り組みを期待したい。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

施設の相談窓口として家庭支援専門相談員が対応し、入所にあたっては生活上の留意点について保護者に説明している。家族との関係構築については児童相談所と常に連携し支援にあたっている。特に家庭からの私物の持ち込みについて、他児への影響も考慮しつつ、親の思いも尊重しながら細やかに配慮している。保護者へ学校行事などの情報を知らせ、参加を促すとともに外出や帰省を通して関係づくりに配慮している。今後は、施設全体で家庭との関係調整の情報共有ができるよう体制を整えられたい。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

親子関係の再構築のための家族支援については、児童相談所の家庭復帰支援員と密に連携し、家庭支援専門相談員が中心となって、現実的な取り組みを支援計画等記録に明記し支援にあたっている。児童相談所主催による家族応援会議やサポート会議に家庭支援専門相談員が参加し保護者との関係構築や、保護者の養育力の向上に努めている。今後は、施設内の親子訓練室利用を活発にし、親子関係の再構築にむけての支援の充実を図られたい。